



西洋建築史に学ぶリノベーションの可能性—— 時間性から物質性へ

講師—加藤 耕一（東京大学大学院工学研究科教授）

歴史的な名建築は、昔のままの姿を保存して、現在まで残されてきたと考えられがちだが、実は西洋の建築や都市の歴史を見ていくと、歴史的な建築は時間のなかで変化することによって現在まで生き残ってきたことがわかる。本講演では、そうした事例を取り上げながら、現代の日本における建築の再利用の可能性について考えたい。

さらに建築の時間論を考えると、経年変化をはじめとする物質性の問題が浮かび上がってくる。そうした観点から、建築の時間性と物質性についても合わせて考えてみたい。



加藤耕一（著）
時がつくる建築：
リノベーションの西洋建築史
東京大学出版会 2017

2022/12/10 土 14:00-16:00 開場 13:30

会場—梅田スカイビル タワーウェスト22階 A 会議室

※参加者が会場定員を超える場合には入場をお断りすることがあります

参加費
無料
(申込不要)

会場定員 80名
(先着順)